

〔堆肥施設の紹介コーナー〕

新見市哲多町堆肥供給センターの紹介

備中県民局畜産第二班

1 施設の概要

本施設は平成8年度から平成9年度にかけて、環境保全型畜産確立対策事業により旧哲多町が事業主体となり、事業費617,021千円（うち国庫308,308千円）で、発酵処理施設、袋詰施設、堆肥散布機などが整備された。

平成10年4月から旧哲多町の堆肥供給センターとして稼働し、現在、施設の管理はもとより堆肥の販売・散布まで新見市から指定を受けた(有)哲多町堆肥センターが実施している。

原料は市内の大型農場（肉用牛：5農場、養鶏：3農場、養豚：2農場）から水分を約60%に調整した家畜のふん尿が搬入され、これらを一定割合でブレンド後、発酵処理して堆肥化し、「すずらん堆肥」として市内外の耕種農家に販売されている。

2 家畜ふんの処理量

日曜日を除いた年間305日の稼働日数で算定した処理計画と平成21年度の実績は表1とおりである。処理量は計画に対して約8割となっている。一方、堆肥は季節的な需要品であることや販売までの保管場所の問題等から、これまでは、場合により家畜ふんの受入を制限せざるを得ない時期もあった。しかし、今後は堆肥の販売量を拡大することで、保管施設を新設することなく稼働率の向上を図る予定である。

原料	計画量(t)	H21実績量(t)	計画比(%)
牛	5,490	4,800	87
豚	915	840	92
鶏	2,745	1,600	58
合計	9,150	7,240	79

3 製品の販売

堆肥の生産量については、水分にも左右されるため具体的な数量を示すことはできていないが、原料量に比例することから、H21年度の生産量は約3,500トン程度と推察される。一方、販売量は約3,800トンと生産量を上回るとともに平成20年度より増加し、在庫もなくなるほどであった。すずらん堆肥は「水稻に使うと小米が減り生産量が増加し、倒伏に強くなった」等の声もあり、一度試すと継続的に利用され、年々需要量が増えている。

製品区分	H20実績量(t)	H21実績量(t)	前年比(%)
バラ製品	2,983	3,444	115
袋詰製品	418	411	98
合計	3,401	3,855	113

4 堆肥センターの経営

表3は平成20、21年度の(有)哲多町堆肥センターの経営状況である。なお、割合は売上高に対するものである。

区分	H20		H21	
	金額(千円)	%	金額(千円)	%
売上高	23,558	100	24,616	100
売上原価	17,530	74	19,979	81
売上総利益	6,028	26	4,637	19
販売・一般管理費	3,440	15	4,875	20
営業外収益	2,132	9	1,510	6
経常利益	4,720	20	1,272	5
当期純利益	3,242	14	624	3

経営のポイントとして、毎日の適切な施設管理や日々の記録を中心としたマネジメント、市内外での堆肥の販売、地元行政と連携した施設の大規模修繕等である。

5 今後の堆肥センターの事業展開

①定期的な成分分析等の実施による堆肥の品質の維持、石ころ・ブロック片等異物の除去による品質向上。

②イナワラ交換事業と併せて市内外で堆肥の販売数量の拡大。

③販売数量の拡大に対応するため日曜日の運転も含め稼働日数の上昇。



新見市哲多町堆肥供給センター



スクープ（攪拌機）